

2009年(平成21年) 4月21日 火曜日

(日刊)

ひと

フォーカス

過労死が発生した企業名の公表を求め、弁護士とともに先月、大阪労働局に情報公開請求をした「過労死の再発防止に企業が本腰を入れ、そのチェックに社会全体で目を充てさせる」がけに、労働者側に負担をかけた労働行政への転換を願う。

大阪府に本社を置く従業員一万人以上の大企業のうち、社員が過労死があった企業名と、大阪中央労働基準監督署が労働基準法違反などで是正勧告した勧告書と是正報告書が請求の対象だ。

過労死・過労自殺と認定された全国の労働者は二〇〇七年度、過去最高の二二万二千

過労死が発生した企業名の公表を求める 寺西 笑子さん(60)



「過労死は国にとってもひとごとではない」と語る寺西さん。45歳で亡くなった夫、彰さんの遺影が自宅には飾られている(京都市伏見区)

労働者側に軸足置いた行政へ転換を

人だが、国は「労働者の悩みに寄り添う」

人情機転を講じ、どの企業で過労死があったのかを明かにしていない。過労死を過労自殺でなくした、労災を認めさせるには、遺族が行政の甘さへの情りが責任を求めず裁判、自らも泣く

「死者を悼み、署名を求める」を繰り返している。〇六年の和解で遺族が署名を提出した。過労死を全労連が取り上げ、労災認定を促すには、遺族が自分から引き出しと戦う必要があり、一方の企業側は公表

を繰り返している。〇六年の和解で遺族が署名を提出した。過労死を全労連が取り上げ、労災認定を促すには、遺族が自分から引き出しと戦う必要があり、一方の企業側は公表を繰り返している。〇六年の和解で遺族が署名を提出した。過労死を全労連が取り上げ、労災認定を促すには、遺族が自分から引き出しと戦う必要があり、一方の企業側は公表を繰り返している。

「京都労災被害者支援会」の代表で、昨秋から「全国過労死を告げる労働者の会」の代表を務める、京都の会では、労災申請に迷う遺族の相談に乗り、会員同士で交流を促して助まそう。「裁判でしんどい」と業間と語れる人間関係は「心のよりどころ」になっている。

労働環境の悪化が進む中、今「一命を真ん中に置いて考えてほしい。人の命が仕事に奪われる事象をなくしたい」。京都市伏見区在住(本田真貴)



平山郁夫さん直筆の歌碑登場

奈良県明日香村の史跡、伝馬鳥取公園で「でんあすか」のふきのみや」館に、日本画家の平山郁夫さん直筆の万葉歌碑が初見された。

明日香村文化協会が平山さんに依頼。万葉集にある西宮皇子(しきのみこ)の和歌を幅約2.3に、高さ約30の石に刻んだ。

同協会は「歴史文化の発信源にしたい」とアピールしている。

秋にシニアカニソムリエ検定

松葉ガニで有名な兵庫県明石市の明石観光協会が、カニのスペシャリストを認定する「シニアカニソムリエ検定」を今秋実施する。

対象は、既にカニの種類や料理法といった基礎知識を身に付け「カニソムリエ」に認定された地元旅館の老かみり約40人。シニア検定は「必須編」として、カニ選びのこつや料理方法別に合うワインなどを学び、一編のサービス向上を目指す。

過労死の再発防止 社会でチェックを

寺西 笑子さん 図

ぎょうの 顔 過労死発生の
企業名公表を行政に求めた。夫
が過労自殺し、全国組
織の家族の会代表に。
「命が仕事に奪われる
事態をなくしたい」

